

見学調査報告書

テーマ : ①貿易取引における国際物流業者の役割と課題
②日本社会における税関の役割と課題

ゼミ名 : 山本 慎悟ゼミ

調査日 : 2019年11月19日(火)

調査先 : ①(株)ユニエックス大井物流センター
②横浜税関

授業科目名 : ベーシック演習Ⅱ・専門演習Ⅱ

参加学生数 : 7名(1年)、2名(3年)

調査の趣旨(目的)

①(株)ユニエックス

海の玄関口である東京港に物流拠点を構える(株)ユニエックスの事業所を訪ね、貿易取引の現場で国際物流業者(フォワーダー)が担う役割を学ぶと共に、同業界の課題を探る。

②横浜税関

貿易取引やその他の場面において税関が担う種々の役割を学ぶことによって日本社会におけるその重要性を知ると共に、それが抱える課題を探る。

調査結果

①(株)ユニエックス

今回の見学調査では、まずユニエックス大井物流センターを訪問した。ここでは、最初に会議室で同センターについて、パワーポイントを用いて説明を受けてから事前提出していた質問への回答をしていただいた。その後、保税倉庫へ移動し、庫内を見学した。特にAEO制度についての話が印象的だった。同社では、AEO制度の認定通関業者と特定保税承認者を取得している。認定を受けると税関の調査のスパンが長くなる、顧客からの信頼を得られるなどのメリットを享受できるが、一方でその分責任が重くなるため、不審な貨物があった場合には税関と連絡を取るなどしながら、不正輸入を未然に防ぐために努力していることがわかった。保税倉庫では、食品を主として様々な貨物が保管されている様子や貨物を移動させるときに使うフォークリフトと呼ばれる乗り物が動いている様子、流通加工を行っている様子などを見学することができた。貨物や季節に合わせて、倉庫内の温度が適切に管理されていることや倉庫内のシステムを用いて在庫数量や賞味期限などの情報が徹底して管理されていることがわかった。

②横浜税関

横浜税関では税関の役割や業務内容についてのDVDを鑑賞し、事前に提出した質問を担当者に回答していただいた。その後、展示室で税関の歴史、偽ブランド品・海賊版等の知的財産侵害物品や覚せい剤等の密輸摘発事例などを見学した。税関での業務は輸出入通関業

務、関税徴収、麻薬・銃器等の社会悪物品や知的財産侵害物品の取締りなど広範囲にわたり、海外の税関や国内外の関係機関などと連携・協力しながら任務に取り組んでいる。不正薬物を摘発するために麻薬探知犬や大型 X 線検査装置を導入しており、平成 30 年の横浜税関での不正薬物の摘発件数は 3 年連続 300 k g を超え、覚せい剤の摘発件数は過去 10 年で最多となっている。また知的財産侵害物品はバック類、自動車付属品やアクセサリなど品目別でも多岐にわたっており、年々増加している。安全を脅かす危険性のある製品を水際で阻止し、偽ブランド品などで得た利益などが犯罪組織の資金源となることを絶つことで消費者の健康や安全の確保や社会の治安維持に貢献している。しかし、税関の取締りが厳しくなる一方で密輸組織も最新技術や様々なネットワークを巧みに利用し、密輸を試みる。そこで税関の課題としては時代の変化に適応した最新検査機器の導入や税関制度の改正などを随時行っていく必要がある。



(写真) 税関キャラクターのカスタム君と共に横浜税関展示室にて